

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 20 日現在

機関番号：32406
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2011～2013
課題番号：23330045
研究課題名(和文) 1970年代の日本の政治的再編 - 第2の「戦後」の形成過程

研究課題名(英文) The Political Reorganization of Japan in the 1970s

研究代表者

福永 文夫 (FUKUNAGA, FUMIO)

獨協大学・法学部・教授

研究者番号：60199255

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,100,000円、(間接経費) 4,230,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではまず、1970年代の政治・外交関係の基礎資料の収集に努めた。大平正芳関係文書をDVD化したほか、福田赳夫氏の諸論稿を収集した。次いで、福田康夫元首相、加藤紘一元自民党衆議院議員、朝賀昭(元田中角栄秘書)ら政治関係者からヒアリングを行い、文書にまとめた。そのほか、阿部穆(元産経新聞政治部長)、宇治敏彦(元東京新聞政治部長)、早野透、薬師寺克行、本田優(元朝日新聞記者)ら新聞記者からヒアリングを行い、記録にとどめた。研究者としては、下村太一(北海道大学)、竹内桂氏から田中角栄、三木武夫関係資料等についてヒアリングを行った。

『1970年代の日本の政治的・外交的再編』として出版予定。

研究成果の概要(英文)：In this research, we collected primary documents relating to Japanese politics and diplomacy in the 1970s. Masayoshi Ohira's paper including private documents were compiled in the two DVDs, and articles written by Takeo Fukuda were bound in one volume. In addition, we exclusively interviewed key person involved in the 1970s' Japanese politics and successfully obtained valuable observations. The persons whom we interviewed includes former Prime Minister Yasuo Fukuda, Mr.Kouichi Kato(Former Liberal Democratic Party Member of the H of R), and Mr.Akira Asaka(Mr. Kakuei Tanaka's secretary). We also interviewed newspaper reporters Mr.Atsusi Abe(Sankei sinbun),Toshihiko Uji(Tokyo sinbun), Mr.Toru Hayano, and others. We also gained invaluable comments and opinions from Mr.Taichi Shimomura on Mr.Tanaka and Mr.Katsura Takechi specialized Mr.Takeo Miki.Our reseach result will be published as The Political and Diplomatic Reorganization of Japan in the 1970s(provisional title) in 2016.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：1970年代 政治的再編 自民党 社会党 三角大福

1. 研究開始当初の背景

「黄金の1960年代」が終わり、「パックス・アメリカーナ」が揺らぐなか、日本は大国としての自覚を醸成しつつ、新たなキャッチアップの段階へと飛び立とうとしていた。内政と外交の連動が個々の政策のみならず、内外の体制レベルにおいても、無視しがたいものとなった。そこでは、従来慣れ親しんできた政策構想や政策決定の方法、政治的慣行などは通用しにくくなり、新たな政策アイデアや政治手法が求められた。言いかえると、日本政治は改めて「戦後」とどう向き合うか、第2の戦後をどう構築するかという問題に直面したのである。

ところで、この時期については、史料公開の関係からか、福祉や労働など個別領域ごとの政策史・制度史研究はあるものの、怨念の抗争史とも理解される政局史を中心とする同時代史的考察以上のものは少ない。歴史研究としては、わずかに外交史が先行してきた。「危機の日本外交 - 1970年代」(『政治学会年報 1997』) 所収論文や若月秀和「『全方位外交』の時代」(日本経済評論社、2006年)は、その例といえよう。

また近年、70年代の政治と外交に関わる文献が相次いで出版されている。福永は『大平正芳 - 「戦後保守」とは何か』(中公新書、2008年12月)で新たに発掘した史料を用い、戦後政治の道程を保守の在り方の面から論じた。さらに福永編『大平正芳著作集 1』、『同 2』(講談社、2010年)、服部龍二編の『心の一燈・回想の大平正芳 その人と政治』(第一法規、2010年)、栗山尚一『外交証言録 沖縄返還・日中国交正常化』などが出され、歴史的考察の地平を広げている。

これらの成果は、これまで安保闘争と高度成長の1960年代に対し、ともすると「三角大福」の熾烈な派閥抗争と石油ショックに見

られる停滞期と見られてきた、1970年代の日本政治研究を一步進めるものである。

2. 研究の目的

1969年の沖縄返還に関する日米合意は、日本の「戦後」に一つの終止符を打った。そして、日本は高度経済成長を背景に次なるステップを迎える。しかし、1971年夏、日本は米中頭越し接近とドル・ショックという、二つのニクソン・ショックに見舞われた。米国の新たな外交政策・経済政策は、戦後国際政治経済システムの構造的転換をもたらし、加えて2度にわたる石油ショックは、日本および世界で、戦後秩序の急激な瓦解への「危機」感を高めた。この国の政治は、内外の環境変化に如何に応えたのだろうか。現実の歴史過程は「戦後」の終わりではなく、ある意味活性化を伴いつつ、その変容・再編の過程であったと考えられる。

本研究は、1970年代を次なるステップ - 第2の「戦後」の形成過程ととらえ、田中角栄、三木武夫、福田赳夫、大平正芳の、いわゆる「三角大福」それぞれの時期の政治過程を、新たな史資料を用い歴史的に分析する。外政面では「アジア・太平洋」を、内政面では「開発」「福祉」「環境」をキー・タームに、70年代を戦後政治史のなかに正当に位置づけることを目的としている。

3. 研究の方法

本研究の方法としては、まず外交・行政文書も含め「三角大福」に関わる基礎史料の収集・整理・検討を行うことにある。その際、「森田一日記」の翻刻はじめ森田文書を含む大平正芳関係文書の整理を行うとともに、三木武夫関係資料(明治大学ほか)、未発掘の福田赳夫関係文書の収集・整理に努める。国会図書館・外交史料館でその他の史資料の収

集に努める。次いで、存命する関係者（政治家・官僚、新聞記者）からのヒアリングを行い、研究基盤の形成に努める。25年度は補充調査の時期と位置付ける。収集した史資料は逐次データ化し、目録を作成する。

第2に、研究目的に記載したように、リーダーの役割に着目しつつ、1970年代のいくつかの重要課題を取り上げ、それが射程においた問題と議論を浮き彫りにする。これについては平成22年度から、史資料収集と並行して、各分担者の役割に応じて個別研究を進める。そして、24年度より研究会において中間報告を行い、25年度末に報告を完成させる。

4. 研究成果

平成23年度は、6月25日東京で、研究打ち合わせ会を行ない、各自分担および平成23年度研究計画を確認した。次いで8月6日東京で第2回研究会を行ない、朝賀昭氏（田中角栄元秘書）の第1回ヒアリングを行った。10月22日東京で第3回研究会を開き、薬師寺克行氏（元朝日新聞記者、現東洋大学教授）から報告「福田赳夫論」を受けた。2012年1月7日早野透（元朝日新聞記者、現桜美林大学教授）から「田中角栄論」の報告を受けた。同日下村太一氏（北海道大学）の『田中角栄と日本列島改造』の書評を兼ねた報告を受けた。

この間、朝賀昭氏（ヒアリング回数11回）、宇治敏彦氏（東京新聞元政治部長、同6回）、阿部穆氏（産経新聞元政治部長、同7回）からヒアリングを行った。

23年度の成果としては、(1)大平正芳記念館所蔵（香川県観音寺市）の大平正芳文書、および森田一氏所蔵文書をCD化した、

(2)朝賀、宇治、阿部3氏のほか、薬師寺、早野氏らのヒアリング記録をまとめ、研究会メンバーで共有した。

24年度も、基礎資料・文献の収集に重点を置いた。加藤紘一自民党衆議院議員、福田康夫元首相ら政治家と上西朗夫氏（毎日新聞元政治部長）からヒアリングを行った。福田・上西両氏からは福田赳夫元首相に関する話を伺った。

24年度の成果としては、(1)大平正芳記念館所蔵（香川県観音寺市）の大平正芳文書の残り、および新たに発見された大平正芳記念財団所蔵の大平正芳の日記と1970年～80年の手帳を「大平正芳文書2」としてDVD化するとともに翻刻し、『大平正芳全著作集』第7巻に収めた。(2)福田康夫、加藤紘一、上西朗夫（元毎日新聞政治部長）のヒアリング記録を文書にまとめた。

平成25年度は、これまでの史資料収集の補完作業と研究報告のまとめ、および研究成果の発表に向けて準備を行った。本田優（元朝日新聞記者）から70年代末から80年代初期の首相外交についてヒアリングを行い、年末には研究会合宿を行った。

成果としては、自民党機関誌『自由民主』の前身である『政策月報』をDVD化した。また福田赳夫氏の論稿を集め、文書化した。さらに研究成果の出版に向けて討議した。一応予定としては、以下の通りとなっている。

「1970年代の日本の政治的・外交的再編」(福永文夫)

「1970年代日本の構想と変容-ポスト70年安保の政党システム」(村井)

「福田外交の起源-平和大国の設計」(若月)

「未完の本土復帰-復帰後の沖縄米軍基地問題 1972-1976」(吉次)

「協同主義と1970年代の自民党-橋本登

美三郎の軌跡を通して」(雨宮)

「田中首相の東南アジア歴訪」(服部)

「三木武夫と日中関係」(竹中)

「1970年代の日米関係」(楠)

「1970年代の日豪関係」(永野)

「サミット外交と福田・大平の『世界の
中の日本』像」(大矢根)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者
には下線)

[雑誌論文](計6件)

大矢根聡「国際規範の法化・遵守連鎖の
逆説 - WTO における法化の不均衡とその
波及効果」国際法外交雑誌 112 - 3、
2013年、査読無、pp.228-51。

村井良太「『社会開発』論と政党システム
の変容」駒沢大学法学部研究紀要、71
号、2013年、pp.1~32。

福永文夫「新史料発見 - 沖縄核密約と日
中国交正常化 大平正芳メモ<抄>」『中
央公論』127、2012年、pp.20~31。

服部龍二「尖閣諸島領有権の原点と経緯」
(『外交』第15号、2012年9月、35 - 47
頁)

服部龍二「二〇一一年一月二二日公開
ファイル『日中国交正常化ほか』」(『外交
史料館報』第26号、2012年12月、79
109頁)

若月秀和「福田赳夫研究 - 1970年代を中
心に」『立教法学』86、2012年、査読無、
pp.109~194。

[学会発表](計0件)

なし

[図書](計8件)

大矢根聡『コンストラクティヴィズム
の国際関係論』有斐閣、2013年、304

頁。

服部龍二「中曽根・胡耀邦関係と歴史問
題 1983 - 86年」(高原明生・服部龍二編
『日中関係史 1972 - 2012年 政治』東
京大学出版会、2012年、501頁)。

福永文夫編『大平正芳全著作集7』講
談社、2012年、477頁。

福永文夫編『大平正芳全著作集6』講
談社、2012年、590頁。

大矢根聡『国際レジームと日米の外交
思想』有斐閣、2012年、278頁。

福永文夫編『大平正芳全著作集5』講
談社、2011年、531頁。

福永文夫編『大平正芳全著作集4』講
談社、2011年、564頁。

服部龍二『日中国交正常化 - 田中角栄、
大平正芳、官僚たちの挑戦』中央公論
新社、2011年、262頁。

[産業財産権]

なし

[その他]

なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

福永 文夫 (FUKUNAGA, Fumio)

獨協大学法学部教授

研究者番号：60199255

(2)研究分担者

雨宮 昭一 (AMEMIYA, Shoichi)

獨協大学法学部教授

研究者番号：90007766

永野 隆行 (NAGANO, Takayuki)

獨協大学外国語学部教授

研究者番号：30306261

大矢根 聡(OYANE, Satoshi)

同志社大学法学部教授

研究者番号：40213889

竹中 佳彦(TAKENAKA, Yoshihiko)

筑波大学人文社会系研究科教授

研究者番号：80236489

服部 龍二(HATTORI, Ryuji)

中央大学総合政策学部教授

研究者番号：80292712

五百旗頭 真(IOKIBE, Makoto)

ひょうご震災記念21世紀研究機構・研究
調査本部理事長

研究者番号：10033747

村井 良太(MURAI, Ryota)

駒澤大学法学部教授

研究者番号：70365534

吉次 公介(YOSHITUGU, Kosuke)

立命館大学法学部准教授

研究者番号：40331178

若月 秀和(WAKATUKI, Hidekazu)

北海学園大学法学部教授

研究者番号：60350295

楠 綾子(KUSUNOKI, Ayako)

関西学院大学国際学部准教授

研究者番号：60531960

中島 琢磨(NAKAJIMA, Takuma)

龍谷大学法学部准教授

研究者番号：20380660

(3)連携研究者

なし